

令和2年7月6日

学校法人三幸学園  
仙台リゾートアンドスポーツ専門学校  
校長 佐藤 亨 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 笠松 淳史

### 学校関係者評価委員会実施報告

令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

- 1 学校関係者評価委員
  - ① 笠松 淳史 (株式会社ルネサンス 泉中央店支配人)
  - ② 門間 昭 (2003年卒業生)
  - ③ 宮下 有裕 (株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 仙台支店長)
- 2 学校関係者評価委員会の開催状況  
令和2年6月18日(会場 仙台リゾートアンドスポーツ専門学校 203教室)
- 3 学校関係者委員会報告  
別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2019年度 学校法人 三幸学園 仙台リゾートアンドスポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 寺澤 正典

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

- ・学校全体の共通目標として「成長とチャレンジ」を掲げ、部門として、日々生徒指導をする中でも成長を考え行動をすることと新しい事には積極的にチャレンジしていく環境を設定した
- ・また教務においては以下の内容の目標・計画を掲げて取り組んだ。

#### 【教務目標】

基本の徹底

#### 【具体的な定性・定量行動計画】

- ・基準の底上げ、教員間で差のない一貫した指導
- ・業界の基準に沿った共育
  - 授業受講態度において統一した指導項目を設定し、講師陣が徹底指導
  - 統一したHR内容を構築し道徳的教育を通じて人間性を向上させる
- ・得た学びを發揮・チャレンジする場の提供
  - 外部活動の活発化と、活動報告の徹底による他生徒への情報共有
  - 学習機会の創出、ICT教育コンテンツの活用による、新たな学びの発見と学習意欲促進
- ・生徒が来たくなるような学校運営(皆精勤率50%以上)
- ・退学率5%未満
  - 担任だけの気づきではなく、学科・学年・関わる教員が気づき動く環境を整備
  - 生徒情報を迅速に共有(オリジナルシートを用いて、資料共有の徹底)

### ② 学校関係者評価委員会コメント

- ・昨年度は役職者・中堅メンバーが大きく入れ替わり、今まで積み重ねてきたものが通用しなくなるため「成長とチャレンジ」を掲げた。また新任メンバーが多いことにより、基準の底上げを図ってきた一年間であった。
- ・リゾートアンドスポーツ分野の強みは産学連携であり、例年以上に外部活動の機会を持つことができた。
- ・ICT教育については加速している。

- ・退学率 5%は達成することができなかった。
- ・寮では、退学になりそうな学生の予兆に寮長が気づき、共立様に連絡が入るということはあるのか  
→同じようなケースが多いが、学校に登校しない・登校しても早退してくるというケースが挙げられる。そのような学生に最近の様子を聞いても本心を答えないが、答えるときは意思が固まっていることが多い。また、寮長が変化に気づいても、どこまで踏み込んでよいのか迷う部分もある。学校から寮に相談があれば協力できることもある。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

#### ① 課題

教育理念の浸透は、学生には入学初期段階でのプログラムで入念に伝わっているが、保護者には入学直前のオリエンテーションの機会に限定されており、同タイミングで学園の概要や学校行事内容など、多くの内容を伝えるための時間が十分に確保できていない現状にある。

#### ② 今後の改善方策

例年通り、保護者向け説明会の参加を促すと同時に、使用する資料の見直しを図り、より学校として伝えていきたい内容、理解した上でサポート頂きたい内容を精査し、保護者会としての価値を高める必要がある。また、学校 HP などを利用して、定期的に周知する機会を設けていく。

#### ③ 特記事項

保護者会参加が出来ていない家庭へのフォローは、当日使用資料の送付対応をしている。また、保護者会終了後にも個別で質問を受け付けるなどしている。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・保護者への教育理念の浸透については、入学前オリエンテーションを実施している。改善としては、ご理解・ご協力が得られなかったり、学校の姿勢・対応で配慮の無い対応をしてしまったこともあった。各家庭に対して文書発送などでフォローをしていくことも必要と感じている。
- ・スクールに入会する子供の保護者または入寮する子供の保護者にどのようなアプローチをしているか  
→レッスン中に酷い場合は、直接話をする。  
→保護者様が怒れない時代になってきているため、良いことだけでなく、改善面も伝えるようにしている。こちらが注意すると、保護者様は自分たちが注意できない分、安心している面も見受けられる。
- ・保護者様向けに郵送物でアプローチしているか  
→特別なアプローチはしていない。心配な場合は、保護者様も入会し、一緒に利用しているということもある。
- ・人材育成については、業界の求めるニーズに沿った育成ができた。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

コンプライアンス体制の整備に関しては、規定等の制定が進んでいるが、認識の定着・徹底を図る必要がある。業務作業効率化に向け、学園全体で導入されているシステム(office365 など)を最大限活用しきれていない。

### ② 今後の改善方策

法定や規則に基づいた業務の認識について、全体会議を活用し、定着・徹底していく。

新たなツールである teams を活用することで手軽に情報共有を図ることで業務の効率化に取り組む。

### ③ 特記事項

情報システムを活用した効率化(クラウド化・情報伝達・ライブ講義等々)は学園全体として取り組んでいる。

### ④学校関係者評価委員会コメント

・企業様のネットワークシステムの導入が早いですが、情報システムを効率化する上で、行っていることはあるか  
→年代問わず使用できるのはラインである。外へ拡散していくツールとしては、フェイスブックを活用しているが、情報量が一番多く・速いのはツイッターである。SNS を拡散する前の土台が非常に大切である。

→情報共有ツールとして、社内のポータルで掲示板・伝言板を使用しているが、スピード感・手軽さ重視で使用しようと検討しているのがワークプレスである。(フェイスブックの企業版のようなもの)労働管理しなければならないため、ラインは個人事業主と同じような使い方は難しいため、通知せずに出勤時に確認する等の対策が必要である。

→本社で SNS を行っているが、学生会館専用アプリとして「ドミコ」というツールを開発し、今年度から導入している。食事数管理やメッセージのやり取りができる。学生は、電話はでないが、メッセージだと反応がある。

→学生達は、遅刻・欠席の電話連絡を、非常にやりにくそうにしている。すべてがメッセージ交換で成り立つ時代であり、話す・喋るということがない。チャットの世界にいますのでコミュニケーションが取りにくい。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

各科目に沿ったカリキュラムの体系化は十分になされているが、科目間での連動性に関してはまだまだ改善の余地がある。教科間連携・学科間連携を図り一貫した教育体系にしていく

#### ② 今後の改善方策

独立した担任という立場ではなく、2020年度は学科担当制を導入し多くの目で学生指導、講師間連携を行っていくことで、より個に対して充実した教育提供ができると考えている

#### ③ 特記事項

時代に沿った、ICT教育コンテンツの導入を行っている

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・多くの企業様のおかげで適正なカリキュラムを作成できている。  
 ・教科間連携・学科連携が薄いことが毎年の課題である。先生方への浸透が出来ていないことが一つの理由である。

- ・施策に対して理解・認識統一をするために、取り組んでいることはあるか
- 施策を実施した先に、どのような成果が得られるのかを説明する必要がある。長い年月携わっている先生もいるため、そこが難しい。学校も教育も進化していく。そこに適応・理解していただくことだと思うが、もし思いが合致しないのであれば、理解してくれる人材を採用したほうが良い。
- 事業としてやることは決まっているため、人によってやり方は違うが、話し合いながら進めていくことが必要である。
- ・ICT教育について、コロナ渦の影響もあり、オンデマンド授業を導入している。遠隔でやることによる効果はあるのか
- 内容によってオンデマンド映えする事、しない事があるため精査が必要である。距離が離れていても出来るということは強みである。今後はAI化で実施可能な内容ではない限り、もう一つの柱になることは難しい。学生にはオンデマンドに慣れてもらうことが必要である。
- オンラインでインストラクターとして働いて気づいたことは、通常は自分たちのハコにお客様に来てもらっていたが、今はお客様の家にお邪魔するという感覚である。今までと同じテンションで接してしまうと温度差が生じる。相手のプライベートな空間に入り込んでいくという感覚であり、言葉の伝わり方も異なってくる。信頼関係が必要である。
- ・講師間連携について、同じ科目であれば中間と最後にやるテストを同じものにしたらどうか。やっていることは講師の裁量になるが目指すところは同じである。
- 教える側がその科目を追及しようとする傾向にある。生徒に成長してほしいという思いが強いため、様々取り入れてしまう。結果、身に付いているかが大切なため、第三者が作ったものに標準を合わせていくということが必要なのではないか。
- 自分が学生の頃を振り返ることも大切である。今の学びが将来必要なのかと思う事があつたと思うが、大人になり必要だと知る。しかし、大人になってから知った「将来必要になる」ということを、学生に話しても理解されない部分がある。その為、今の学びが将来必要だと言わなくても伝わるようにしていくことが必要なのではないか。
- オンラインがひとつの答えかもしれない。いい先生に一つの授業を実施していただき、それを全国で広めるということができるといいのではないか。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

退学率についても大きく改善をすることが出来ていない。大きな課題として周囲の教員の関わり具合の強化が必要であるとする。卒業生に関しては情報を把握する手段や繋がりが属人的になっているため、学校として卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保できるような仕組みづくりが必要である。

## ② 今後の改善方策

業界の活性化や卒業生のキャリア支援という視点から、卒後教育や卒業生間の繋がり構築などの取り組みを学校単体ではなく、リゾスポ分野全体として進めていく。同窓会組織や SankoLink(同窓会サイト)の活用を推進する。

退学率低減に関しては、今年度より担当制を採用し、複数の教員でクラスを管理していくことで、情報共有の速度を早めることや、確実に情報が行き届くようにする。また、教員レベルの標準化も図ることが出来る。

それぞれの事象に対して対応できる教員の協力を仰ぐなど、一丸となって向き合える環境の整備に努める。

## ③ 特記事項

学園全体として卒業生・同窓会組織に関するプロジェクトを進めており、まずは WEB を使った情報発信の仕組みを構築している。在学中から認知できるよう周知している。

## ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 卒業生の状況を把握するために同窓会リンク・人材バンクがあるが、活発化していない、そのあとを追い切れていないことが課題である。

- ・ 学校は継続しているが、退寮する学生はいるのか

→退寮を防止するために、寮長に協力してもらったりしている。退寮の理由が、大人になる上で出てくる欲望であったりするが、卒業するまで育てたいという思いはある。しかし門限など厳しい規則もあるため、緩和することも検討している。

- ・ 卒業したあと横のつながりはあるのか

→そこまで多くはない。

→横のつながりはないが、縦のつながりは増えた。同窓会リンクは使いこなせばすごく良いものであるが、入るまでのひと手間に苦労するのではないか。例えばハッシュタグをつけて投稿してもらい、サイトに卒業生に来てもらうのではなく、こちらから見に行く姿勢がいいと思う。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

### ① 課題

就職に関しては、全員が決定した状態で卒業させることができていない。

### ② 今後の改善方策

担任が軸となり、企業担当や就職担当がサポートしている体制だったが、上記にも記載がある通り学科担当制の導入に伴い、就職の面でも充実したサポート体制を目指している。

### ③ 特記事項

学生の相談に対する体制としては、適宜希望が出たタイミングでカウンセラーの先生にカウンセリングを実施している。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今年には就職活動が困難になる懸念があるが、何かアドバイスはあるか。  
→厳しくなるのは間違いないため、とにかく動き出すことが重要になってくる。学生は選ぶ権利があり、選ばれる側でもある。とにかく動いて、選ばれてから決めればよいのではないか。
- ・このような能力・視点があればというのはあるか  
→一般職からしたら体育系の学生は求めている。一般企業からしたら魅力的な学校である  
→今後の就職活動はマスクしたままで実施することが増えると思うが、明るく・元気という良い点がアピールできないことも出てくるのではないか。声のトーンを上げるなど、対策が必要である。  
→中小企業でリゾートアンドスポーツ専門学校と関わりはないが、スポーツ産業に興味のある会社はある。そこ繋がるような場があれば学生の視野も広がるのではないか。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

- ・生徒数が年々増えており、大人数を収容できる教室が足りなくなってきている。
- ・実習形態の多様化により、実習受け入れに協力してもらおう施設をさらに増やしていく必要がある。

### ② 今後の改善方策

- ・時間割における教室稼働・時間稼働を工夫することで解決する。
- ・実習受け入れ施設の開拓。年間を通して、関連施設の調査および巡回を行い。実習受け入れについて打診をする。

### ③ 特記事項

学園全体として産学連携には力を入れて実施をしている。生徒へ学びの機会を提供ができるよう、引き続き注力していく。



#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・生徒数が増加したこともあり、実習先の開拓が必要である。今までは授業を実施いただいている先生の会社や帯同先にお世話になっていたが、昨年度からフィットネス・ジム系も取り入れている。
- ・実習先で何かを学べというの難しいのではないかと。何でもよいから学んでくるように伝えるよりは、気に入られて帰ってくるという事を伝えてはどうか。実習先からしても、教えられることは限られているため、学生はつまらないと思ってしまう。出来ることといえば、人柄の良さを売ることであり、そこから就職につながる場合もある。
- ・企業間連携を検討している。実務内容はどこも同じような内容であるため、実習生を受け入れる場合、連携している企業を日によって変えることはできるのか。生徒にとっても視野が広がるきっかけになる  
→検討してみたい。

#### (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

#### ① 課題

- ・留学生の進路相談において体制が整っていないこと。
- ・日頃の教育成果(資格合格率・就職先・授業内容など)を伝える手段においてパンフレットがメインとなっているため、成果を効果的・タイムリーに伝えられていないこと。
- ・学費に関するサポート制度の周知がなかなかできておらず、入学を断念する学生がいること。

#### ② 今後の改善方策

- ・留学生受け入れに関する相談窓口を設置する。
- ・日頃の教育成果を効果的・タイムリーに伝えられるツール・機会を検討する。
- ・学費サポート制度について分かりやすいツールを作成・周知する。

#### ③ 特記事項

- ・学園で設置されている地域広報室を拠点に、各高校と連携を取りながら、高校生の進路活動サポートを実施している。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・パンフレットや打ち出しで意識していることはあるか  
→まだアナログな状態である。足がかりとして、各施設の動画をとり、サイトからアクセスできるようにしようと検討している。
- ・WEBのディスプレイ広告は効果あるのではないかと  
→分野によっては活用しているが、まだまだである。学園の方針がマスメディアを活用しない方針であるため。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

現在、第2次中期計画(2018年度～2022年度)の対象期間中であるが、当該計画を着実に実行すると共に今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

関係法令にて義務化されている自己評価とともに、評価結果の公開についても定例化させる必要がある。

### ② 今後の改善方策

自己評価ならびに学校関係者評価の結果からの運営改善とともに公開を進める。

### ③ 特記事項

産学連携による教育の充実を図っている中で職業実践専門課程への対応を視野に入れて法令を遵守する。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2

### ① 課題

教育環境の1つとしてスポーツ分野に関連したボランティア活動を積極的に推奨しており、業界と連携した場の提供と現場での教育理解を図った上で展開している。

平成 25 年度から近隣の幼児を対象に生徒たちがサポートするスポーツ教室を展開し、大変好評を得ている。行政関係の講座・教育訓練受託に関しては分野的に対象者（希望者）がほとんどないため実施できていない。

### ② 今後の改善方策

学校という教育環境とスポーツ人材育成という実践環境を活かして地域や関係団体と連携した活動をより推進していく。

### ③ 特記事項

平成 26 年 5 月竣工の新校舎においては、スポーツ業界の人材育成の教育環境を活かして、地域に留まらず東北エリアにおいて人材育成の情報発信施設・人材交流施設を目指して運営を行う。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 昨年は台風被害の大きかった丸森町へ行き、ボランティア活動を実施した。
- ・ 学校の指定ジャージを着て、清掃活動を行えば、近隣住民の方に認識してもらえるのではないか。
- ・ 何かあった時に内外に示すという意味で「災害ボランティアチーム」というものがあるという事を知らせるとよいのではないか。
- ・ 仙台のお祭りに出場したりすることもよいのではないか。ボランティアも2種類あり、定期的なものと何かあったときに対応するものがある。
- ・ 今年はコロナ渦でできるような地域貢献・社会貢献を検討していく必要がある。

### (11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

#### ① 課題

特になし

#### ② 今後の改善方策

特になし

#### ③ 特記事項

今年度、留学生の入学者が1名いるため、今後様々な対応が予想される。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 今年是一名留学生がいる。今後対応が出てくることもある。
  - ・ 外国籍の方とスポーツのかかわりはあるのか
- 全国的に見て、東北は留学生が少ない。特色をどのように差別化するか。
- 外国籍の方は文化・価値観が違う点が面白く感じる。出来ないことを出来ないと伝えることが日本人は難しいが、外国籍の方はできたりする。学生にとっての学びとしては、短期留学でもいいので来てもらう事が学びになると思う。学生のころは似た価値観の仲間が集まる傾向があり、目立ってはいけないという風紀もある。他の文化を知るということは良い経験になる。

### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総じて、全体の目標に対して、ある程度の成果が得られているように感じる。また、計画立案においても達成が困難ではない目標設定となっている為、働く職員も行動がしやすいのではないかと感じる。また、細部まで目標設定をしているので、目標達成に向けた各校務の進捗状況などは、継続的にチェックを行い、状況によっては、軌道修正を行うと良い。また、教務目標に掲げる5%の退学率について、近年、修学支援制度などが充実してきたことから、適宜学生に対して案内を行い、就学困難な状況とならぬよう、配慮が出来るようになる。